

## 4 調査結果の概要

### (1) 日常生活での心配ごと(Q1)(報告書9頁)

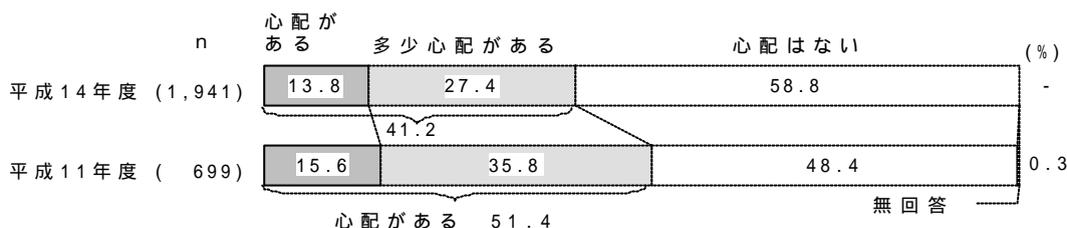
日常生活での心配ごとでは、「心配がある」13.8%、「多少心配がある」27.4%を合わせた『心配がある』が41.2%。

一方、「心配はない」は58.8%。

前回比較では、『心配がある』は10.2ポイント減少、「心配はない」が10.4ポイント増加。

健康状態別では、健康状態が良くないほど『心配がある』の割合が高く、健康状態が良いと答えた人では16.0%、良くないと答えた人は85.3%。

図1-1 日常生活での心配ごと(Q1)



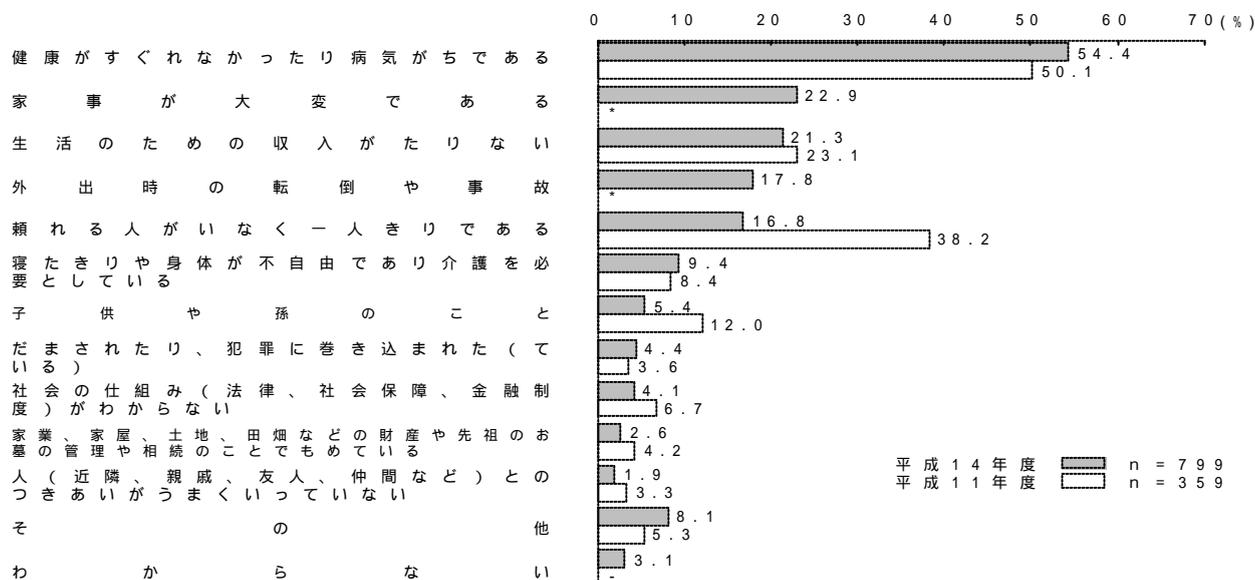
### (2) 日常生活での心配ごとの内容(Q1SQ)(報告書11頁)

日常生活で心配ごとがある人に、心配ごとはどのようなことが尋ねると、「健康がすぐれなかつたり病気がちである」が54.4%と過半数を超え、「家事が大変である」22.9%、「生活のための収入がたりない」21.3%、「外出時の転倒や事故」17.8%、「頼れる人がいなく一人きりである」16.8%、「寝たきりや身体が不自由であり介護を必要としている」9.4%、「子供や孫のこと」5.4%等の順。

前回比較では、「頼れる人がいなく一人きりである」が21.4ポイントと大きく減少、「子供や孫のこと」も6.6ポイント減少。

結婚の有無別では、「頼れる人がいなく一人きりである」は離別(23.6%)、未婚(23.8%)の割合が高い。

図1-2 日常生活での心配ごとの内容(Q1SQ)(複数回答)

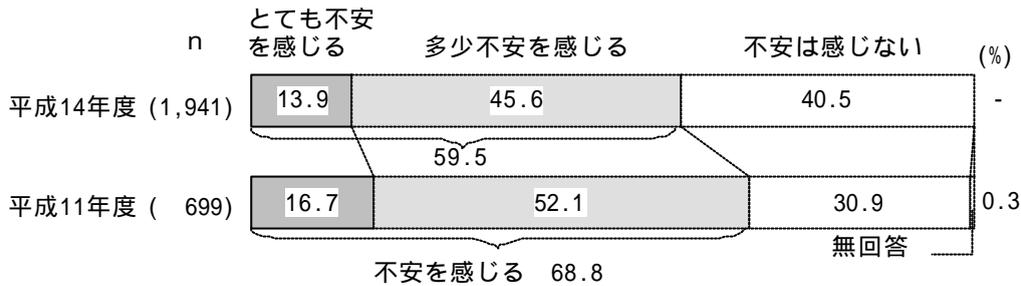


\*平成11年度調査では「家事が大変である」「外出時の転倒や事故」の選択肢は設けられていない。

(3) 将来への不安(Q2) (報告書 14 頁)

将来の自分の日常生活への不安については、「とても不安を感じる」13.9%と「多少不安を感じる」45.6%を合わせた『不安を感じる』が59.5%で6割弱が将来への不安を感じている。一方、「不安を感じない」は40.5%。  
 前回比較では、『不安を感じる』は9.3ポイント減少。

図1-3 将来への不安(Q2)

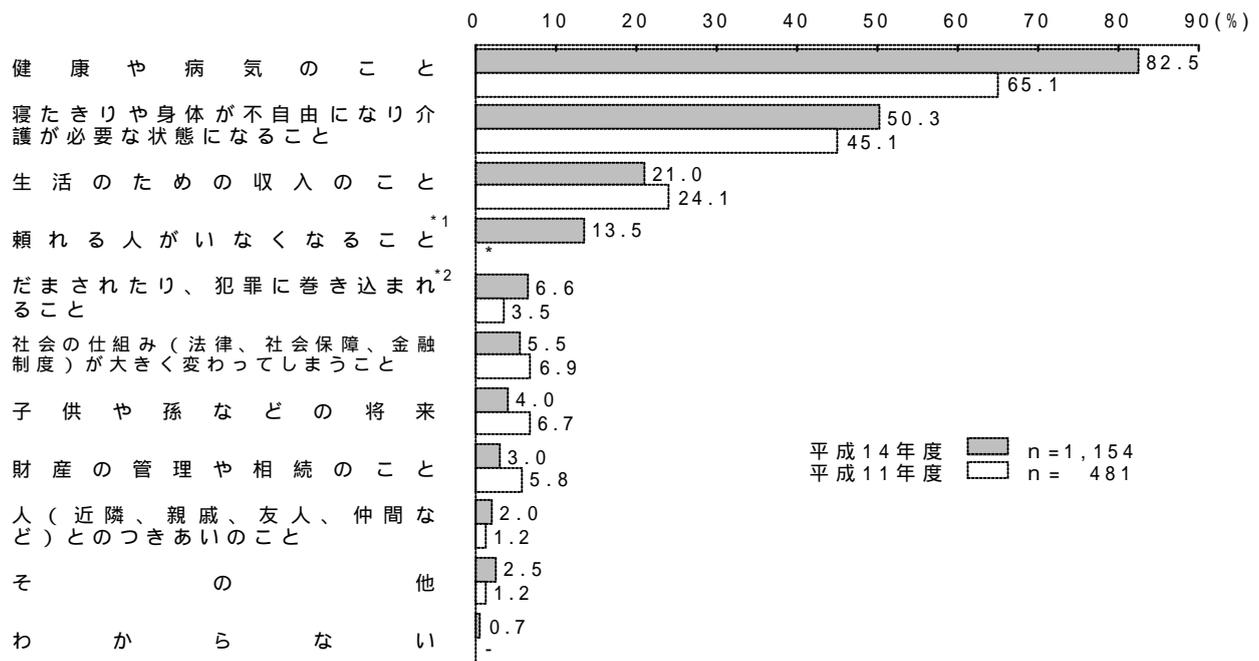


(4) 将来の不安な点(Q2SQ) (報告書 16 頁)

将来の自分の日常生活で不安を感じると答えた人に、「不安はどのようなことか」尋ねると、「健康や病気のこと」が82.5%と8割を超え最も高く、「寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」50.3%、「生活のための収入のこと」21.0%、「頼れる人がいなくなること」13.5%等の順。

前回比較では、「健康や病気のこと」が17.4ポイント、「寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」が5.2ポイント増加。「生活のための収入のこと」は3.1ポイント減少。

図1-4 将来の不安な点(Q2SQ)(複数回答)



\*1 平成11年度調査では「頼れる人がいなくなること」の選択肢は設けられていない。

\*2 平成11年度調査では「だまされたり、犯罪に巻き込まれて財産を失ってしまうこと」となっている。

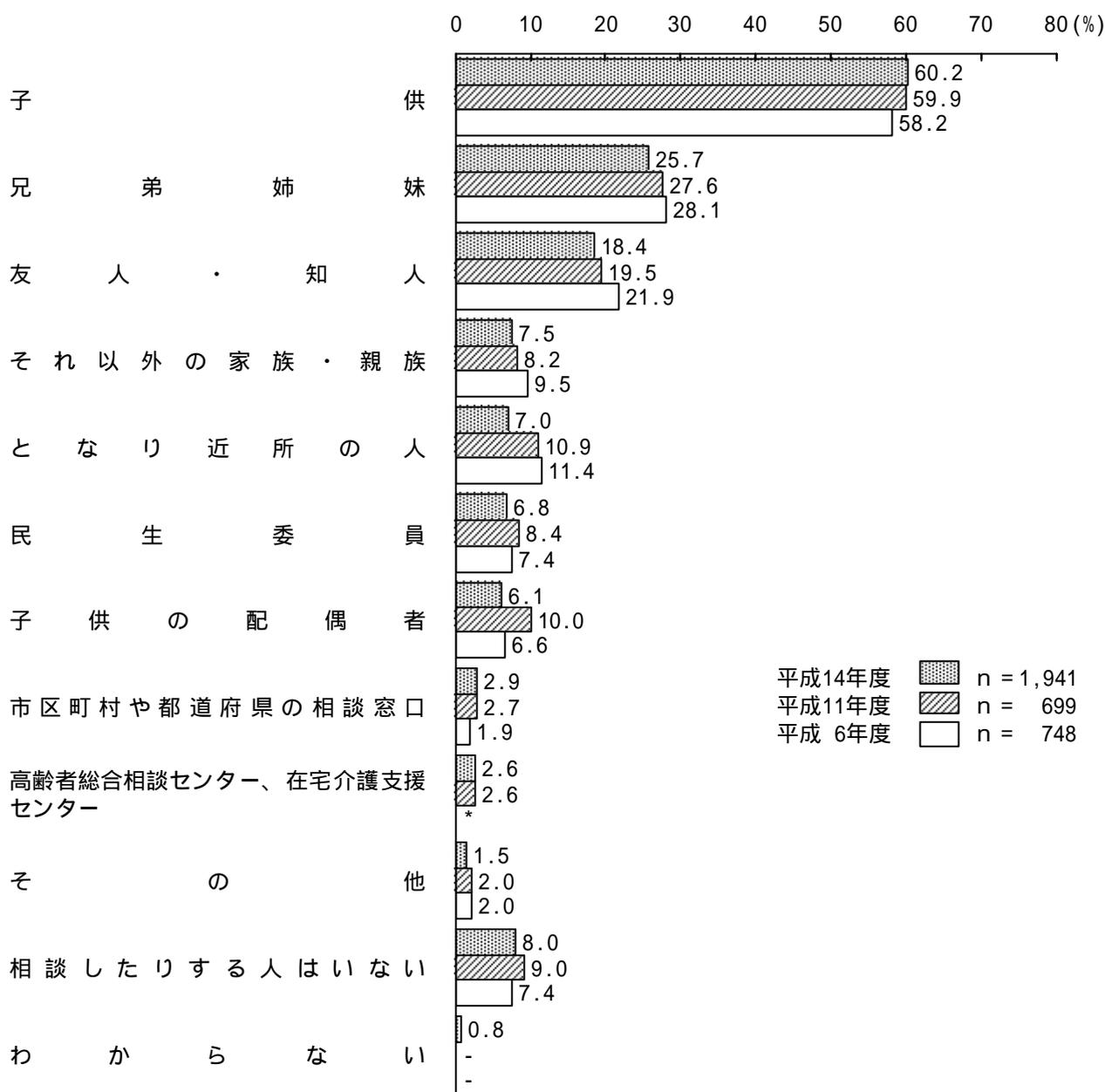
(5) 心配ごとの相談相手(Q3)(報告書19頁)

心配ごとや悩みごとの話し相手や相談相手では、「子供」が60.2%と最も高く、「兄弟姉妹」25.7%、「友人・知人」18.4%、「それ以外の家族・親族」7.5%、「となり近所の人」7.0%等の順。一方、「相談したりする人はいない」は8.0%で1割未満。

性別では、「子供」(男性48.7%、女性63.7%)は女性の割合が高い。

結婚の有無別では、「相談したりする人はいない」は離別(14.8%)、未婚(18.0%)の割合が高い。

図1-5 心配ごとの相談相手(Q3)(複数回答)



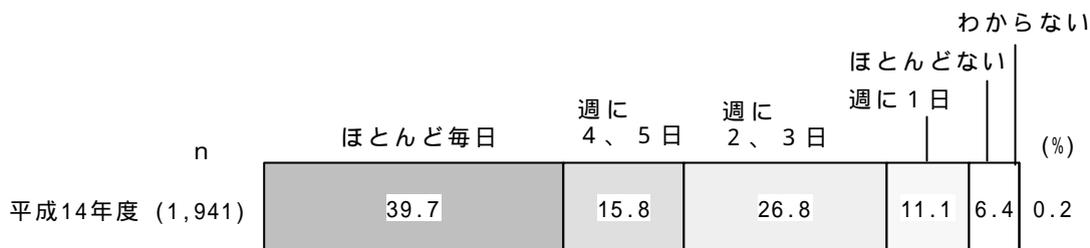
\*平成6年度調査では「高齢者総合相談センター、在宅介護支援センター」の選択肢はない。

(6) 外出頻度 (Q7) (報告書 28 頁)

週に何日くらい出かけるかでは、「ほとんど毎日」が 39.7%、「週に 2、3 日」26.8%、「週に 4、5 日」15.8%、「週に 1 日」11.1%、「ほとんどない」6.4%。

性別では、「ほとんど毎日」(男性 51.5%、女性 36.0%)は男性の、「週に 2、3 日」(男性 20.5%、女性 28.7%)、「週に 1 日」(男性 6.8%、女性 12.4%)は女性の割合が高い。

図 2 - 1 外出頻度(Q7)



(7) 近所づきあい(Q10) (報告書 35 頁)

近所の人とどの程度つきあいをしているかでは、「お互いに訪問しあう人がいる」が 41.0%と最も高く、「立ち話をする程度の人がいる」27.5%、「あいさつをする程度の人がいる」22.6%、「つきあいはない」8.9%の順。

前回及び前々回比較では、「お互いに訪問しあう人がいる」は前回調査より 6.2 ポイント減少、前々回調査より 9.8 ポイント減少。

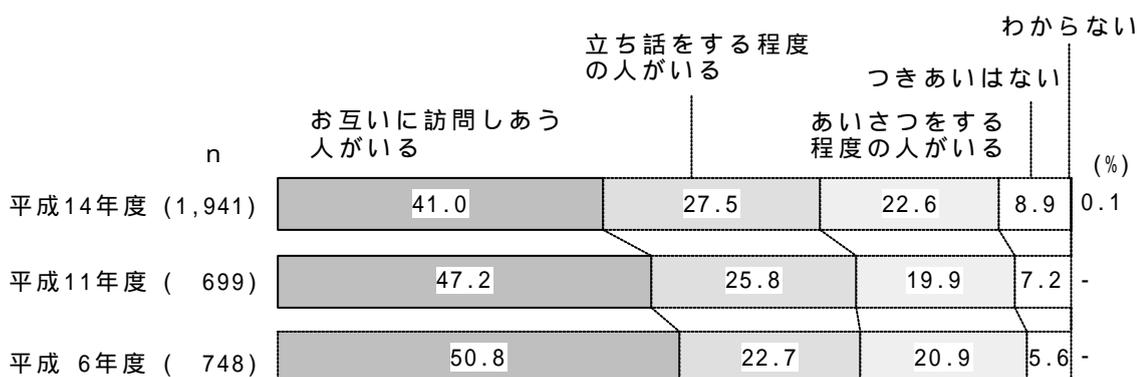
性別では、「お互いに訪問しあう人がいる」(男性 24.4%、女性 46.1%)は女性の、「あいさつをする程度の人がいる」(男性 30.8%、女性 20.0%)、「つきあいはない」(男性 15.4%、女性 6.9%)は男性の割合が高い。

都市規模別では、「お互いに訪問しあう人がいる」は都市規模が小さくなるほど割合が高く、大都市で 27.0%となっているが、小都市(52.0%)、町村(56.2%)では半数を超えている。「あいさつをする程度の人がいる」は大都市(32.9%)で割合が高く、「つきあいはない」は都市規模が大きくなるほど割合が高い。

結婚の有無別では、「つきあいはない」は離別(16.3%)、未婚(14.8%)の割合が高い。

住宅の種類別では、「お互いに訪問しあう人がいる」は持家(一戸建て)で 48.0%と割合が高く、「つきあいはない」は借家(民営の共同住宅)で 25.5%と高い。

図 3 - 1 近所づきあい(Q10)

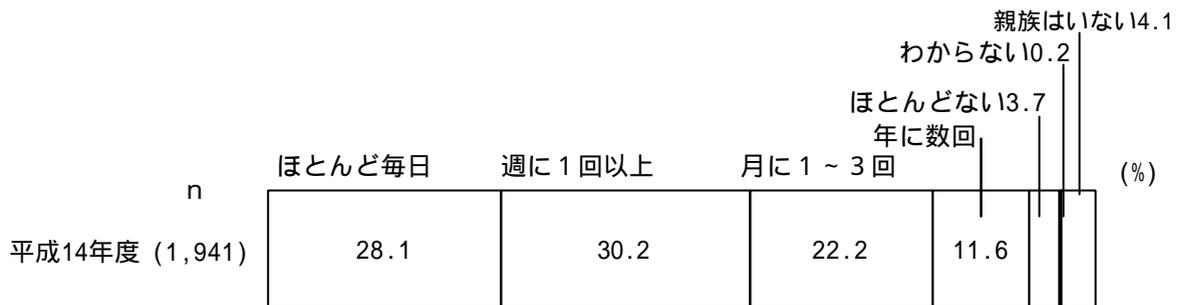


(8) 親族との接触頻度(Q11) (報告書 37 頁)

お子さんや兄弟姉妹など親族の方とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話などで連絡をとったりするかでは、「週に1回以上」が30.2%、「ほとんど毎日」28.1%、「月に1～3回」22.2%、「年に数回」11.6%、「ほとんどない」は3.7%。

性別では、「ほとんど毎日」(男性21.8%、女性30.1%)、「週に1回以上」(男性22.5%、女性32.5%)は女性の、「年に数回」(男性17.2%、女性9.9%)、「ほとんどない」(男性7.9%、女性2.4%)は男性の割合が高い。

図3 - 2 親族との接触頻度(Q11)

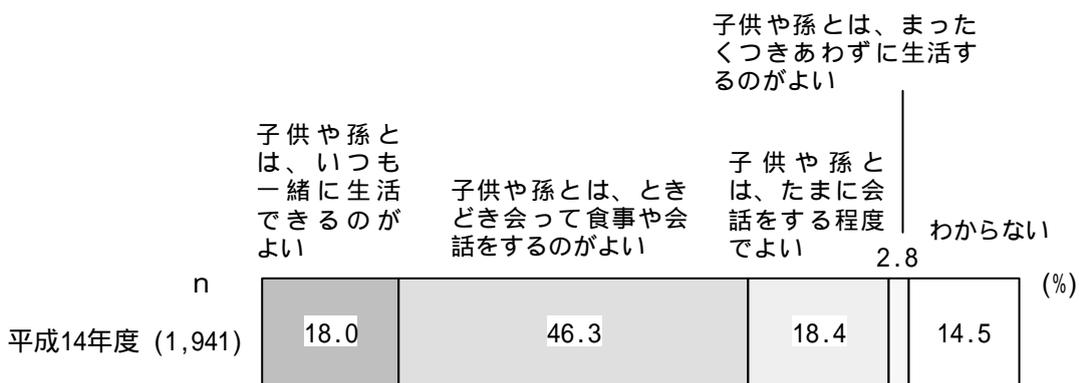


(9) 老後における望ましい子供とのつきあい(Q12) (報告書 39 頁)

老後における子供や孫とのつきあいについて、どのように考えるかでは、「子供や孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい」が46.3%で最も高く、「子供や孫とは、たまに会話をする程度でよい」18.4%、「子供や孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい」18.0%、「子供や孫とは、まったくつきあわずに生活するのがよい」2.8%の順。

性別では、「子供や孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい」(男性34.1%、女性50.0%)は女性の割合が高い。一方、「わからない」(男性19.4%、女性13.0%)は男性の割合が高い。

図3 - 3 老後における望ましい子供とのつきあい(Q12)



(参考) 老後における子供や孫との付き合いについての考え(65歳以上高齢者)

(単位: %)

子供や孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい	子供や孫とは、ときどき会って食事や会話をするのがよい	子供や孫とは、たまに会話をする程度でよい	子供や孫とは、全くつきあわずに生活するのがよい	わからない
45.6	39.2	8.0	0.9	6.1

第5回 高齢者の生活と意識に関する国際比較調査(平成13年)

(10) 親しい友人の有無(Q13) (報告書 41 頁)

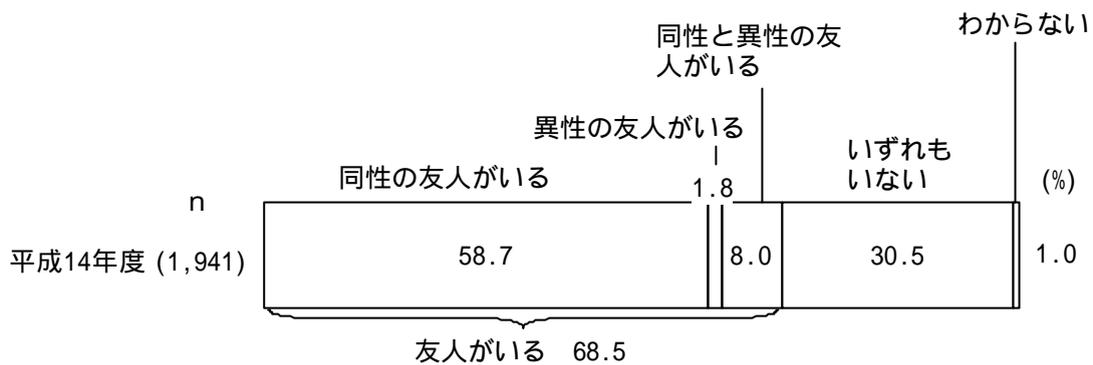
家族や親族以外の人で相談しあったり、世話をしあう親しい友人がいるかでは、「同性の友人がいる」が 58.7%で約 6 割を占め、「同性と異性の友人がいる」8.0%、「異性の友人がいる」1.8%。「いずれもない」は 30.5%。

性別では、「同性の友人がいる」(男性 37.0%、女性 65.4%)は女性の、「同性と異性の友人がいる」(男性 12.3%、女性 6.7%)、「いずれもない」(男性 44.9%、女性 26.1%)は、男性の割合が高い。

親しい友人がいなく、且つ近所づきあいのない人は 5.5%。

親しい友人がいなく、且つ親族との接触頻度がほとんどない人は 2.2%。

図 3 - 4 親しい友人の有無(Q13)



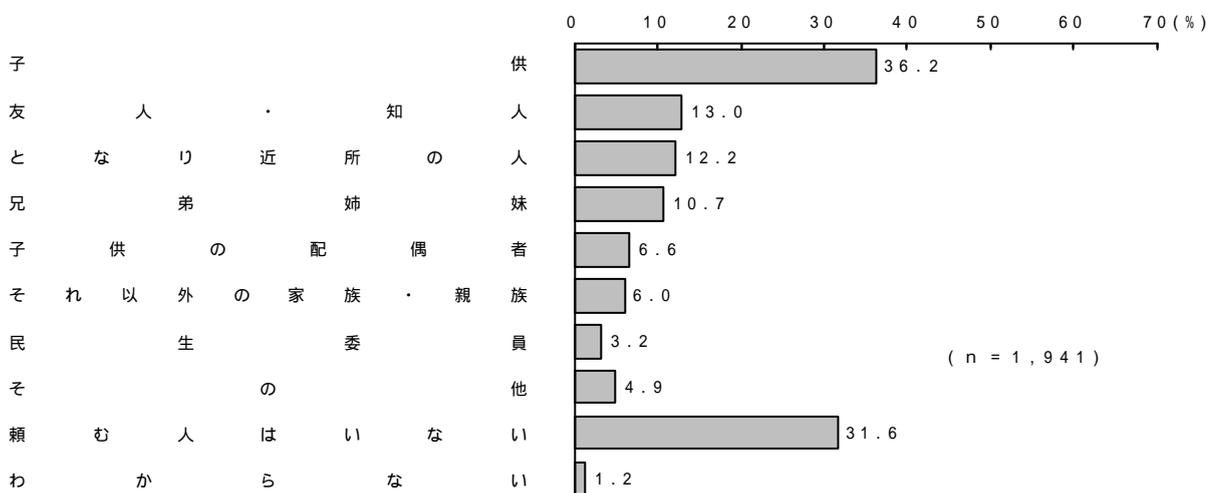
(11) 日常の用事を頼む相手(Q14) (報告書 44 頁)

日常の用事をだれに頼むかでは、「子供」が 36.2%で最も高く、「友人・知人」13.0%、「となり近所の人」12.2%、「兄弟姉妹」10.7%、「子供の配偶者」6.6%、「それ以外の家族・親族」6.0%、「民生委員」3.2%の順。一方、「頼む人はいない」は 31.6%。

性別では、女性は「子供」の割合が 38.4%と高く、男性は「頼む人はいない」の割合が 39.2%と高い。

年齢別では、「頼む人はいない」(前期高齢者 36.1%、後期高齢者 26.1%)は後期高齢者が前期高齢者より 10.0 ポイント割合が低く、80 歳以上で 22.9%。

図 3 - 5 日常の用事を頼む相手(Q14)(複数回答)

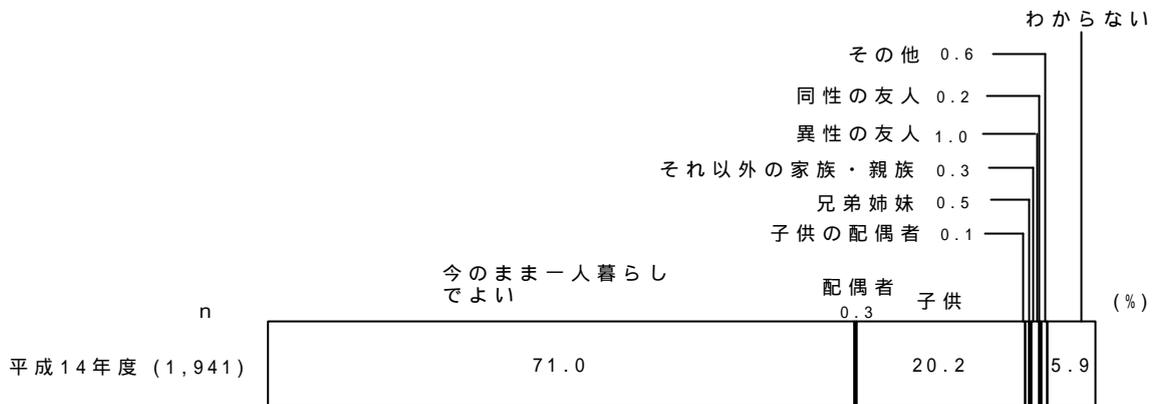


(12) 今後の同居意向(Q16) (報告書 48 頁)

今後だれかと一緒に暮らしたいと考えるかでは、「今のまま一人暮らしでよい」が71.0%と最も高く、「子供」20.2%と続き、その他の項目は1%以下。

親族との接触頻度別では、「今のまま一人暮らしでよい」は接触頻度が少ないほど割合が高く、年に数回で80.0%、ほとんどないで83.1%。

図3 - 6 今後の同居意向(Q16)



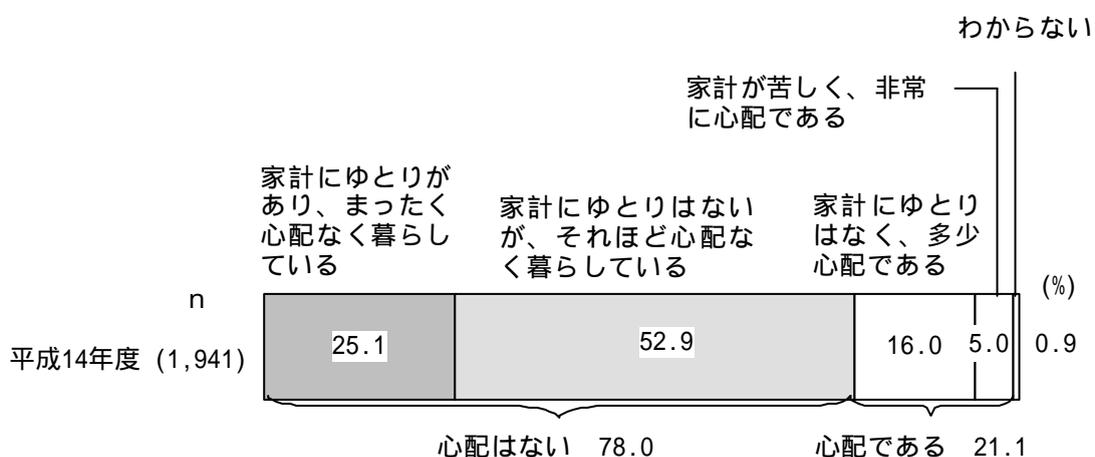
(13) 経済的な暮らし向き(Q17) (報告書 50 頁)

自分の現在の経済的な暮らし向きについてどのように考えるかでは、「家計にゆとりがあり、まったく心配なく暮らしている」25.1%、「家計にゆとりはないが、それほど心配なく暮らしている」52.9%を合わせた『心配はない』は78.0%。一方、「家計にゆとりはなく、多少心配である」16.0%と「家計が苦しく、非常に心配である」5.0%を合わせた『心配である』は21.1%。

年齢別では、『心配はない』は年齢が高いほど割合が高く、65~69歳では72.4%となっているが、75歳以上では81.4%。

結婚の有無別では、『心配である』は死別で17.3%と割合が低く、離別(36.2%)、未婚(29.5%)で割合が高い。

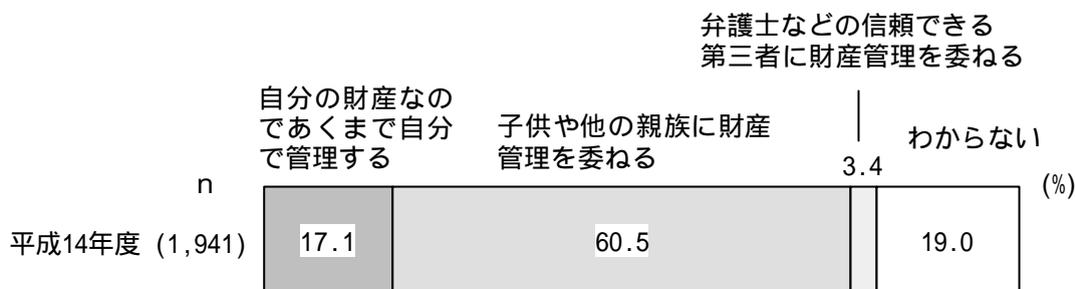
図4 - 1 経済的な暮らし向き(Q17)



(14) 財産管理を委ねる相手(Q20) (報告書 56 頁)

万一、老人性痴呆症になるなど、高齢化に伴って財産の適正な管理や活用に不安が生じた場合、どうするかでは、「子供や他の親族に財産管理を委ねる」が 60.5%、「自分の財産なのであくまで自分で管理する」17.1%、「弁護士などの信頼できる第三者に財産管理を委ねる」3.4%の順。また、「わからない」が 19.0%と 2 割弱。

図 4 - 2 財産管理を委ねる相手(Q20)



(参考) 財産管理を委ねる相手(65 歳以上高齢者)

(単位: %)

自分の財産なのであくまで自分で管理する	配偶者に財産管理を委ねる	子供や他の親族に財産管理を委ねる	弁護士などの信頼できる第三者に財産管理を委ねる	その他	わからない
6.1	26.0	52.3	2.1	0.3	13.3

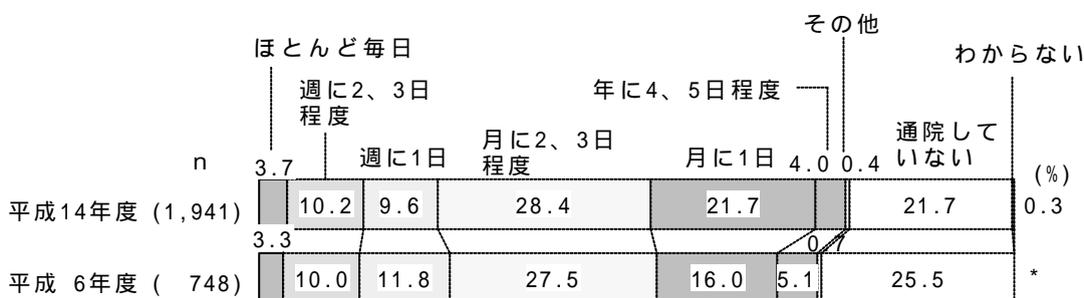
高齢者の経済生活に関する意識調査 (平成 14 年)

(15) 通院の程度(Q21) (報告書 58 頁)

現在、病気の治療のために病院や診療所にどの程度通院しているかでは、「月に 2、3 日程度」が 28.4%と最も高く、「月に 1 日」21.7%、「週に 2、3 日程度」10.2%、「週に 1 日」9.6%、「年に 4、5 日程度」4.0%、「ほとんど毎日」が 3.7%の順。「通院していない」は 21.7%。

前々回比較では、「月に 1 日」は 5.7 ポイント増加、「通院していない」が 3.8 ポイント減少。

図 5 - 1 通院の程度(Q21)



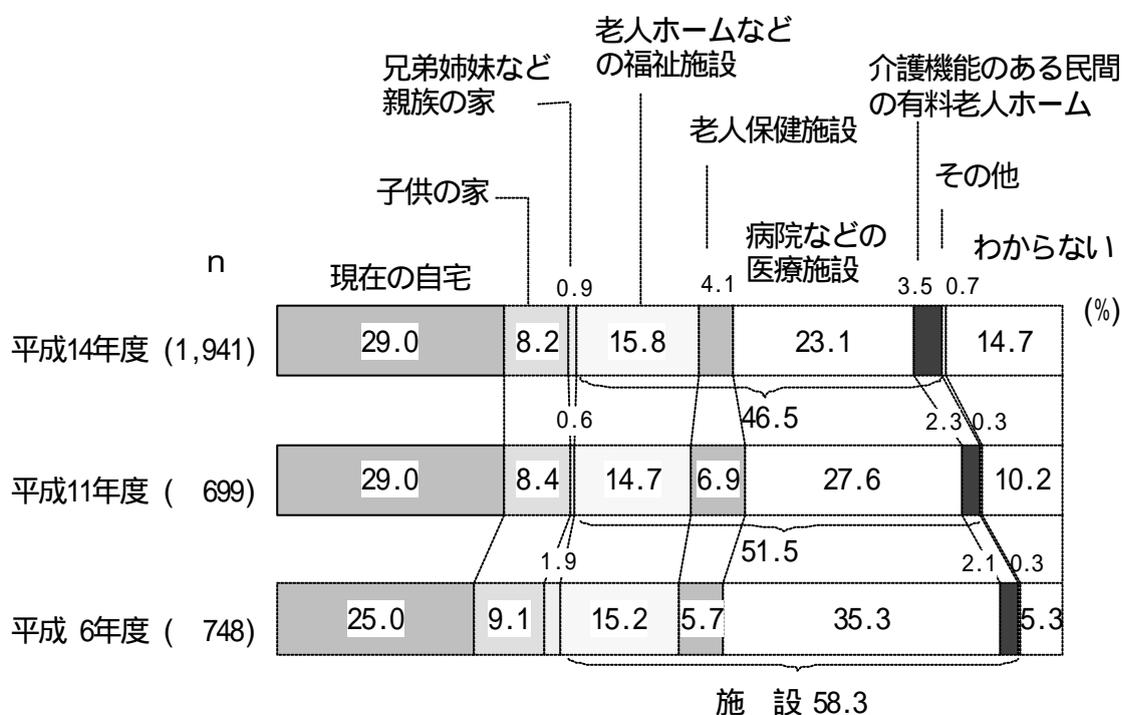
(16) 介護の場所(Q23) (報告書 63 頁)

仮に身体が虚弱になって、日常生活を送る上で介護を必要とするようになった場合、どこで介護を受けたいかでは、「現在の自宅」が 29.0%と最も高く、「病院などの医療施設」23.1%、「老人ホームなどの福祉施設」15.8%、「子供の家」8.2%。また、「老人ホームなどの福祉施設」、「老人保健施設」、「病院などの医療施設」、「介護機能のある民間の有料老人ホーム」を合わせた『施設』は 46.5%。

前回、前々回比較では、「病院などの医療施設」が前回より 4.5 ポイント、前々回より 12.2 ポイント減少。

持家・借家別では、「現在の自宅」は『借家』(16.0%)より『持家』(34.2%)で割合が高く、『施設』は『持家』(42.8%)より『借家』(55.8%)で割合が高い。

図 5 - 2 介護の場所(Q23)

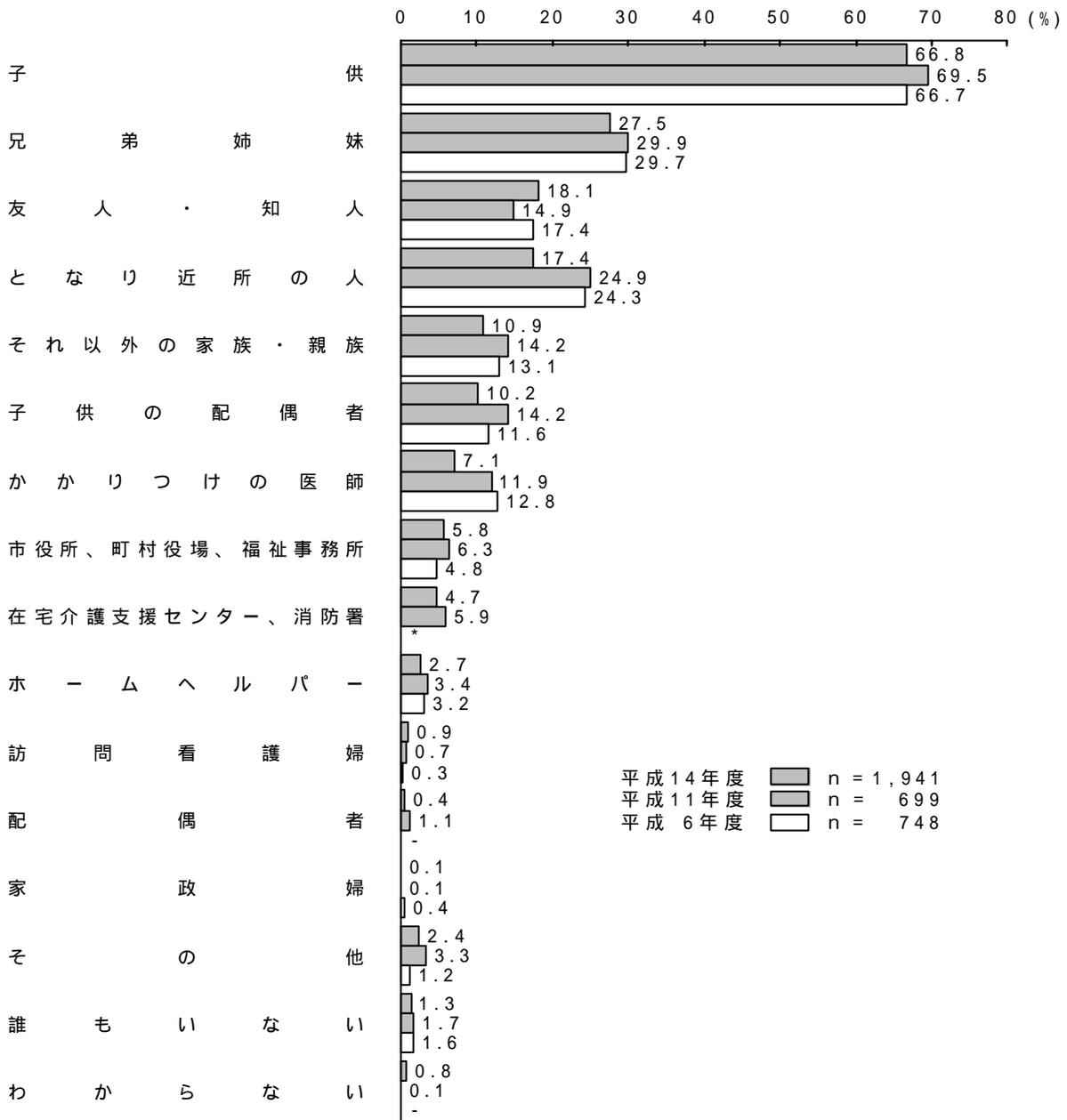


(17) 緊急時の連絡先(Q24) (報告書 66 頁)

けがや病気などで緊急に人の手助けを必要となった時、誰に連絡するかでは、「子供」が66.8%と最も高く、「兄弟姉妹」27.5%、「友人・知人」18.1%、「となり近所の人」17.4%、「それ以外の家族・親族」10.9%、「子供の配偶者」10.2%と続き、その他の項目は1割未満。なお、「誰もいない」は1.3%。

前回・前々回比較では、「となり近所の人」が前回調査より7.5ポイント、「かかりつけの医師」が前回調査より4.8ポイント、前々回調査より5.7ポイント減少。

図5 - 3 緊急時の連絡先(Q24)(3つまでの複数回答)



\*平成6年度調査では「在宅介護支援センター、消防署」の選択肢は設けられていない。